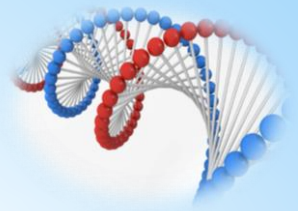


遺伝子検査のご案内



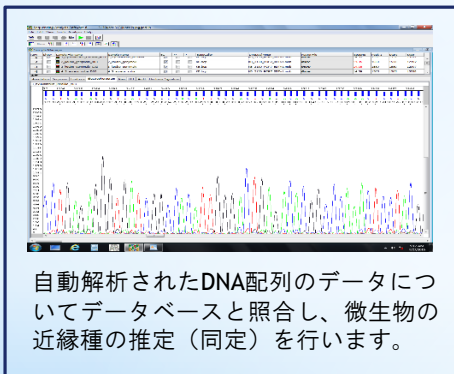
これまで微生物検査は培養法が主流でしたが、近年遺伝子を用いた検査法が様々な分野で取り入れられています。遺伝子検査のメリットは、培養法に比べ迅速に結果が得られること、培養法では困難であった菌種も検査可能であることなどが挙げられます。

当社では、下記の遺伝子検査について整備いたしました。ぜひご利用ください。

DNAシーケンサーを用いた微生物種の同定

DNAの塩基配列解析により、微生物種を同定いたします。

食品の腐敗、膨張、変質等の問題発生時に、原因となる微生物の同定を行うことで、「どんな微生物なのか」「安全か有害か」などの情報を得ることができ、原因究明、対策の考案、病原性の確認に役立ちます。



DNAシーケンサーを用いた微生物同定試験を行うと・・・

微生物の学名(又は菌群名)が分かります。

その微生物の「分離報告例」「病原性」「生育条件」「耐熱性」「殺菌条件」などの情報が得られます。

二次汚染の防止や、殺菌処理の方法など、対応策が得られます。

消費者に対して安全性の情報を提供でき、信頼関係が築けます。



リアルタイムPCRを用いた病原微生物の検出

リアルタイムPCR装置を用いた遺伝子検査により、病原微生物等の検出を行います。培養法では数日かかっていた検査をリアルタイムPCRで行った場合、わずか1~2日で結果を得ることが可能です。

リアルタイムPCR法	培養法
1-2日で迅速に結果が得られる 検出感度が高い 非常に特異的であり客観性がある 培養できない微生物を検出できる	数日必要で迅速性に欠ける 検出感度が低い 再現性に問題があることがある 培養不可能な微生物がある



検査項目

- ノロウイルス
- 腸管出血性大腸菌 (O157等)
- その他病原微生物

高感度・短時間の検査方法で、いち早く検査結果をご連絡いたします。